

中堅教諭等資質向上研修 (教諭)

授業づくり



目次（授業づくり）

授業づくり	61
授業づくりのねらいと考え方	62
研究の構想に向けて	63
授業づくりのプロセス《単元（題材）づくり》	64
授業づくりのプロセス構想シート(記入例)	72
授業づくりのプロセス構想シート【道徳】(記入例)	74
授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】(記入例)	76
授業づくりのプロセス構想シート①【自立活動】(記入例)	78
授業づくりのプロセス構想シート②【自立活動】(記入例)	80
学習評価	82
課題研究の進め方	83
課題研究構想メモ(記入例)	84
課題研究構想メモ(チェック表)	85
課題研究 構想発表(校内発表)の進め方の例	86
授業づくり②(第Ⅱ回教育センター研修)	87
課題研究 校内中間発表の進め方の例	88
課題研究 中間発表(第Ⅲ回教育センター研修)	89
課題研究 校内成果発表の進め方の例	90
課題研究 成果発表(第Ⅳ回教育センター研修)	91
課題研究 振り返りシート(第Ⅳ回教育センター研修)	92

授業づくり

中堅教諭等資質向上研修(教諭)では、「課題研究」及び「授業研究」をあわせて「授業づくり」と呼んでいます。年間を通じて以下のテーマを意識した研修に心がけましょう。

教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる

課題研究

- ・自らが選択した教科等で研究
- ・課題研究の構想・中間・成果発表
- ※校内と教育センター研修で実施

授業研究

- ・課題研究に関連した授業及び協議(2回)
- ※学習指導案審議と研究授業と研究協議を行う

◆経験年数に応じた研修において大切にしたい授業力の視点 (●は重点)

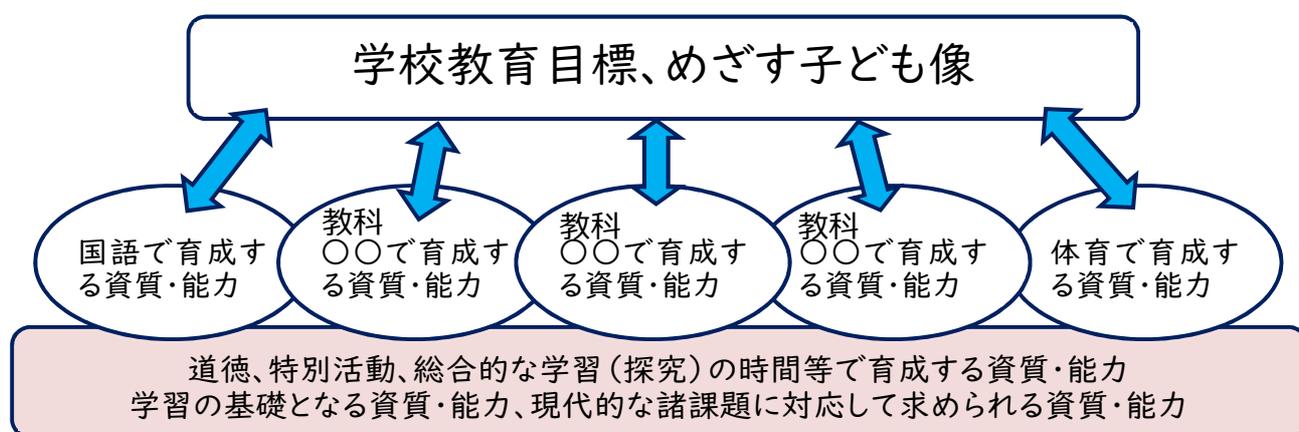
	初任者研修	6年目研修	中堅教諭等資質向上研修
授業でめざす子どもの姿	教科等の見方・考え方を働かせ、資質・能力を伸ばす ～ 主体的・対話的で深い学びを通して ～		
「授業づくり」におけるねらい	育成したい資質・能力を踏まえ、1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができる。	身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる。	教科等横断的な視点に立った資質・能力※を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる。 ※「言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力」及び「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」等のこと
指導と評価の一体化 ～授業改善につなげる～			
構想力及び生徒理解力	指導のねらい	●学習指導要領に示された児童生徒等が学習前に身に付けてきている資質・能力を踏まえ、児童生徒等の実態を把握する。 ●児童生徒等が学習前に身に付けてきた育成する資質・能力を踏まえ、単元(題材)において育成する資質・能力を明確にする。	●学校教育目標と教科等の指導内容の系統性、他教科等との関連性を踏まえ、育成する資質・能力を明確にする。
	指導計画	●児童生徒等の主体的・対話的で深い学びが実現される学習活動を設定する。 ・児童生徒が教科等の見方・考え方を働かせる授業を計画する。	●児童生徒等が学習前に身に付けてきた資質・能力を踏まえ、目指す資質・能力を育むための単元(題材)計画等を構成する。 ・児童生徒等が教科等の見方・考え方を働かせる授業を行う。
	学習評価	・指導と評価の一体化の意義を理解するとともに、評価の計画を立てて授業を行い、目標に準拠した評価をする。 ●単元(題材)の目標と評価規準を見通しながら、単元における評価場面や方法を工夫し、資質・能力を育成するための学習指導に活かす。	●単元(題材)の目標と評価規準を見通しながら、単元における評価の場面や方法を工夫し、教科横断的な視点に立った資質・能力を育成するための学習指導に活かす。
指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う集団づくりに努める。(学習規律、安心して学習できる場) ・児童生徒等の発達の段階を踏まえた支援を行う。(個々のニーズに応じた指導や支援、ユニバーサルデザインの視点) ・指導技術を高める。(発問、言葉かけ、板書、教材・教具、ICT活用、学習形態等) 		
情熱・使命感	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観を尊重する。 ・新しい教育情報等を進んで得ようとする。 ・他者から学ぶ。(同僚、管理職、保護者・地域、児童生徒等から) 		

授業づくりのねらいと考え方

これまでの授業を振り返り、「探究・発展期」を充実させて、
教師としての資質能力の向上を図りましょう！

1年かけてめざす姿

教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる



- (1) 所属校の学校教育目標等を理解する。
- (2) 学校教育目標の実現のため、各教科等において育成する資質・能力を、
 - ア「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」
 - イ「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」
 - ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよく人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」の三つの柱で整理するとともに、各教科等の「見方・考え方」「育成する資質・能力」を理解する。
- (3) 教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の相互関連や学年・学校段階間の円滑な接続を意識した実践の手立てを考える。
- (4) 単元(題材)の指導計画・評価計画を構想し、指導&評価をする。

「児童生徒が、教科等の見方・考え方を働かせ、教科等が目指す資質・能力を伸ばす」
ことができる授業を実践して、学校教育目標(めざす子ども像)の実現をめざす!

研究の構想に向けて

<p>(1) 学校教育目標 (目指す子ども像・研究主題等)</p>	
<p>(2) 教科等の目標(育成する資質・能力)</p>	<p>選択した教科等【 _____ 】</p>
<p>(3) 教科等の「見方・考え方」 ※「自立活動」は省略</p>	<p>教科等の「<u>見方・考え方</u>」</p> <p>単元(題材)の学習で働かせる「<u>見方・考え方</u>」</p>

授業づくりのプロセス《単元(題材)づくり》

あなたは、授業の構想を立てるとき、何から読み（見）始めますか？

- ・教科書
- ・教科書の指導書
- ・これまでに実施された研究授業等の学習指導案
- ・学習指導要領（教科の解説）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
- ・その他

1番目に見るのは教科書ではないでしょうか。もちろん、それが間違いというわけではありません。教科書の教材は、一般性が高く、全国どこでも通用します。いつでも誰でも活用できるものです。しかし、目の前にいる児童生徒の実態にいつでも適しているとは言えません。

教科書に書かれている内容を教えることが大切なのではありません。学校で学んだことが、児童生徒の「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながる力、これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現する力。つまり、これからの社会を生きていくうえで必要とされる資質・能力を育てる大きな使命が教師にはあるのです。そのためには、教科や単元(題材)等で育成する資質・能力は何なのかをしっかりと理解しておくことが大切です。

教科等で育成を目指す資質・能力が示されているのが「学習指導要領(解説)」です。学習指導要領を読み込み、何をいかに学んでいくかを考えることで、児童生徒の実態に応じた最適な単元(題材)や授業をデザインすることができます。また、教科書の意図することも理解でき、教科書を越えた単元(題材)を構想することもできます。



「新教育課程を生かす能力ベースの授業づくり」より
齊藤一弥・高知県教育委員会（ぎょうせい）

①学校教育目標、めざす児童生徒像、研究主題との関わり

「学校教育目標」は、その学校が行う教育活動の究極の目的を実現するために達成すべき具体的な目標です。学校、児童生徒、保護者、地域が手を取り合い、心を一つにして取り組むものでもあります。したがって、教職員だけが知っていればよいというものではなく、その学校にかかわる全ての人が理解し、協力していくものです。学校教育目標が実現された児童生徒の姿として表したものが「めざす児童生徒像」です。そして、その目標実現のために行う教育活動を実践・検証していくのが研究です。

ところで、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」は、学校教育目標を

設定する際の視点として次のように示しています。

- (1) 法律及び学習指導要領に定められた目的や目標を前提とするものであること。
- (2) 教育委員会の規則、方針等に従っていること。
- (3) 学校として育成を目指す資質・能力が明確であること。
- (4) 学校や地域の実態等に即したものであること。
- (5) 教育的価値が高く、継続的な実践が可能なものであること。
- (6) 評価が可能な具体性を有すること。

このことからわかるように、学校教育目標と毎日の授業は、切っても切り離せません。単元(題材)を構想するときは、その単元(題材)で育てる資質・能力が学校教育目標等とどのように関わっているかを確認しましょう。

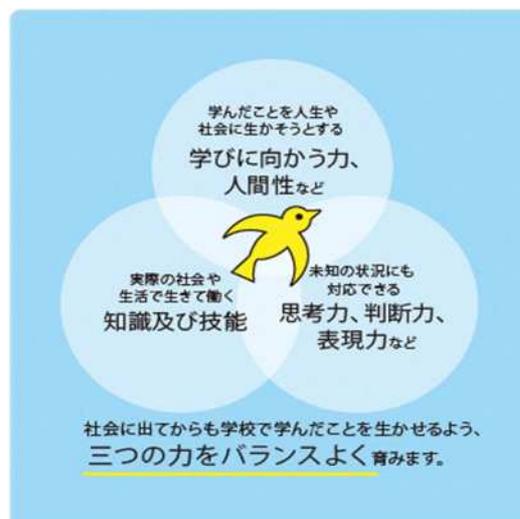
②単元(題材)名

単元名(教科によっては「題材名」「主題名」等、別の表記もある。以下これらをまとめて「単元(題材)名」と記す。)は、いくつかの教材や活動で意図をもって構成された一連の学習活動を表しています。学習指導要領に示されている内容を単元(題材)名にすることもありますが、できれば児童生徒が見いだした問いやその単元(題材)で追究する課題と結びつく単元(題材)名、児童生徒が取り組んでみたい魅力ある単元(題材)名を考えましょう。

③教科、単元(題材)で育成する資質・能力

この度の学習指導要領は、「内容ベース」から「資質・能力ベース」への転換が図られています。新しい時代を生きる児童生徒に必要な資質・能力が「知識及び技能」(教科によっては一部表現が異なる)「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱として整理されました。「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を行えるよう、すべての教科でこの三つの柱に基づく児童生徒の学びを後押しすることが求められます。

資質・能力ベースの教育では、「何を知っているか」から「どのようなことが成し遂げられるか」「いかなる問題(課題)解決ができるか」へ視点を変え、これまでの授業を見つめ直すことが大切です。



文部科学省 HP より

④学習評価と評価規準

「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(中央教育審議会)において、学習評価の改善の基本的な方向性が示されました。

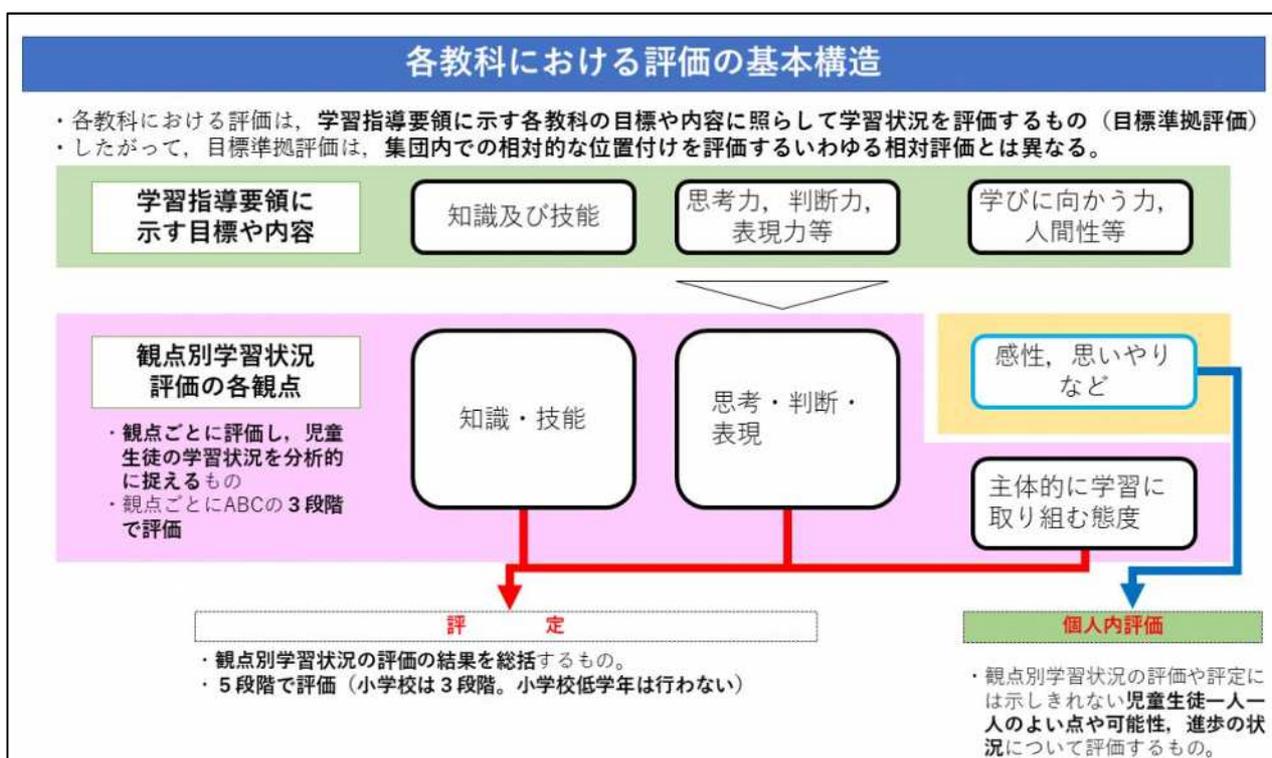
- ・ 児童生徒の学習改善につながる評価へ

- ・教師の指導改善につながる評価へ
- ・これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していく

このように、学習評価の主たる目的は、「児童生徒の学習改善」と「教師の指導改善」の2つです。学習評価を通じて、

- ・学習指導の在り方を見直すこと
- ・個に応じた指導の充実を図ること
- ・学校における教育活動を組織として改善すること

で、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図ります。「指導と評価の一体化」は、教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。教師は、各教科等の目標の実現に向け、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や児童生徒の学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすために、学習評価を行います。



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 より （国立教育政策研究所）

各教科等の評価については、「観点別学習状況の評価」と「評定」があります。「観点別学習状況の評価」とは、学校における児童生徒の学習状況を、複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析する評価のことです。「評定」は、各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、数値で表します。

観点別学習状況の評価は、学習指導要領で示された「育てたい資質・能力」の三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に沿って、それぞれ「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価します。

《知識・技能の評価》

- ・学習の過程を通じた個別の知識及び技能の習得状況
- ・それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか

《思考・判断・表現の評価》

- ・知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか

《主体的に学習に取り組む態度の評価》

- ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
- ・上記の粘り強い取組の中で、児童生徒が自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面

児童生徒が各教科等での学習において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点に課題が認められるかを明らかにすることは、具体的な学習や指導の改善につながります。

各学校において目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うに当たっては、観点ごとに評価規準を定める必要があります。

評価規準とは、観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したものであり、新しい学力観に立って児童生徒が身に付ける資質や能力の質的な面を表したものです。

単元(題材)の評価規準は、内容のまとまりごとの評価規準を踏まえて作成します。作成に当たっては、

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校、高等学校)」(国立教育政策研究所)を活用しましょう。



⑤単元(題材)で身に付ける資質・能力のつながり

全ての学習内容は、過去の学習(生活)からつながっており、そして、未来の学習(生活)につながっていきます。児童生徒が見方・考え方を働かせることができるよう、教師が課題提示の仕方や指導方法を工夫すれば、児童生徒は学びの連続性に関心を持って取り組みます。

そこで、単元(題材)を構想するときは、その単元(題材)との前後のつながりを学年・校種を超えて見ておくといよいでしょう。例えば、小学校6年算数で学習する「比例」を見てみましょう。

⑥児童生徒の実態

授業では、児童生徒の実態把握は欠かせません。これから学習する内容について、興味・

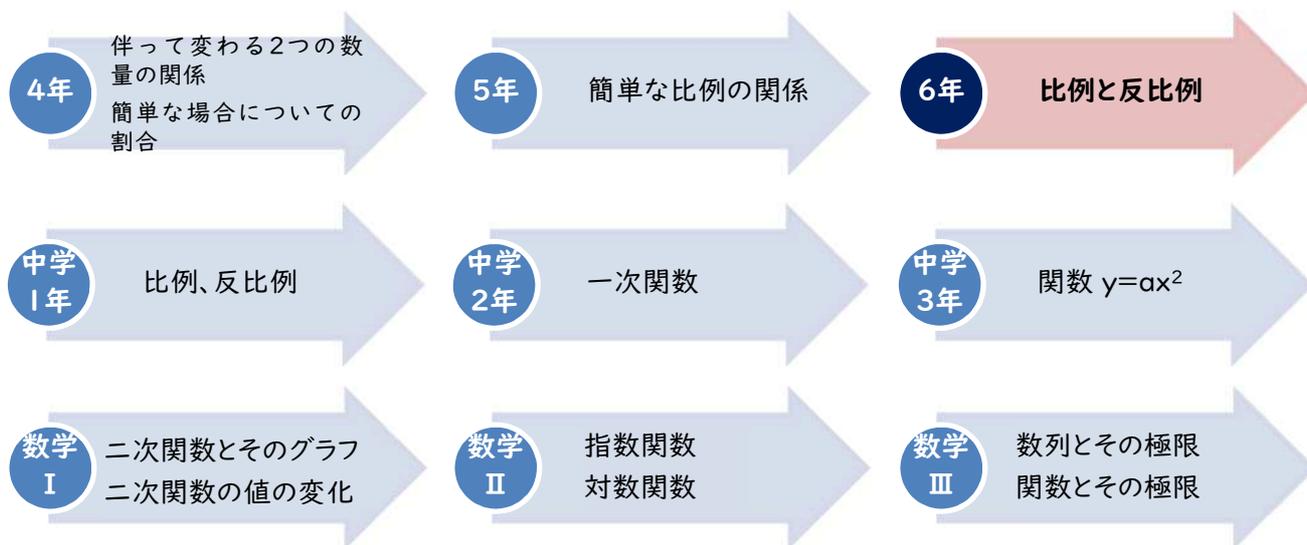
関心の程度はどれだけのなか、どのような問題意識があるのか、どのような資質・能力が身に付いているのか（何を学んでいるのか）、この単元(題材)で身に付ける資質・能力と比べ何がたりないのかなど、さまざまな視点から児童生徒の実態を知ることが大切です。そして、児童生徒と単元(題材)の学習対象との関わり方を考え、児童生徒自らが（または教師と共に）「問い」を見いだせるようにしていきます。

⑦見方・考え方を働かせている児童生徒

学習する内容は、これまでの学習で得られた知識、技能、思考力、判断力、表現力等を活用することで課題解決できるものがほとんどです。つまり、児童生徒自身が見方・考え方を働かせることによって、新たな学習に向かって主体的に取り組み、資質・能力をさらに伸ばしたり、新たな資質・能力を身に付けたりしていきます。

したがって、見方・考え方を働かせる経験を児童生徒が積み重ねる授業を構想することが大切です。単元(題材)の導入で「新しいことを勉強するよ」「勉強がだんだん難しくなっていくよ。しっかり勉強しようね」と、児童生徒への意欲喚起をする言葉がけを耳にします。この言葉がけを「これまでの勉強が役に立つかも」「この問題を解決するためには、これまで習ったことを上手く使えないかな」のような、児童生徒自らが見方・考え方を働かせたくなるように変えていきましょう。

授業の中で、困っている児童生徒に対して「ヒントカード」等を準備することがあります。それも支援の一つの方法ですが、むしろその単元(題材)と関係ある学習の足あとの掲示、ノート、教材等を自由に見たり触ったりできる環境を整えておきましょう。児童生徒は課題解決の過程で、必要に応じて自ら選択しながらその環境を活用していきます。



このように、「比例」は小学校6年だけで学習するのではなく、少なくとも小学校4年生から（基礎はもっと前から）学んでおり、数学Ⅲまで続いていきます。一つ一つが新しい学習内容ではなく、それぞれが関連し合っていることを理解し、見方・考え方が働く学習を構想しましょう。

⑧児童生徒自ら問いを見だし、主体的・対話的で深い学びを通して解決していくための手立てや支援

児童生徒が、単元(題材)の学習対象と関わり「問い」を見いだせば、既に主体的な学習の一步を踏み出しています。ここで大切なことは、その問いがこれから学習するゴールと対応した問いであるかどうかです。児童生徒が、自らの問いの解決に一所懸命取り組んだとしても、ゴールと関係ない課題解決では、単元(題材)目標は達成されません。教師には、児童生徒が目指すべき課題へと導いていく大切な役目があります。

教師は、本時のねらい(単元(題材)のねらい)をしっかりと把握したうえで、児童生徒が、課題解決の目的や目標(ゴール)を意識し、課題の解決までの過程を思い描き、見方・考え方を働かせて課題解決できるような学習過程を展開します。

まとめや振り返りについては、児童生徒自身が「何ができるようになったのか」「どのような見方・考え方を働かせて解決できたのか」「どんな新しい見方・考え方を働かせることができるようになったのか」「理解したこと・できるようになったことをこれからどのように活用していけるのか」などを自覚できるようにすることが大切です。

ところで、「主体的・対話的で深い学び」の主語は誰でしょう。もちろん「児童生徒＝学習者」です。従来の学習指導要領は「教員が何を教えるか」という観点を中心に組み立てられていました。そのことは、教科等の縦割りを越えた指導改善の工夫や、指導の目的を「何を知っているか」ととどまらず「何ができるようになるか」にまで発展させることを妨げていました。そこで、現学習指導要領では、まず学習する児童生徒の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成を目指す資質・能力が整理されました。その上で、「何を学ぶか」という、必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶか」という、児童生徒の具体的な学びの姿を考えながら構成していくこととしました。児童生徒が「どのように学ぶか」の姿として示されたのが「主体的・対話的で深い学び」です。

これを指導者側から見たとき、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、授業をどのように変えていけばよいかを考えていくこととなります。



文部科学省 HP より

主体的・対話的で深い学

びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、次の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されました。

- (1) 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見直しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- (2) 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

(3) 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

ここからもわかるように、例えば「対話的」と言ったとき、単に「個人思考」→「ペアでの話し合い」→「グループでの話し合い」→「全体での話し合い」のような話し合いの形式のことを言っているのではありません。「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びなのかをしっかりと理解し、その実現に向けての授業改善をしていくことが大切です。

⑨教師の評価言

あなたは、1単位時間の授業で、何分話していますか？教師として何を話していますか？教師が発するひと言で、児童生徒の学習活動が活発化することもあれば停滞することもあります。教師は、常に自らの発問・発言を磨き、児童生徒を「主体的・対話的で深い学び」へと促し、導いていきます。教師の言葉がけの中でも、児童生徒への評価言は特に重要です。児童生徒の発言(考え)や行動の一つ一つにどのような評価を与えるのか、学習の場面や児童生徒の反応に応じた評価言を考えておくことも大切です。これらを積み重ねることによって、ふだんの授業の中で最適な評価言が自然に口から出るようになっていきます。

⑩単元(題材)の指導と評価の計画

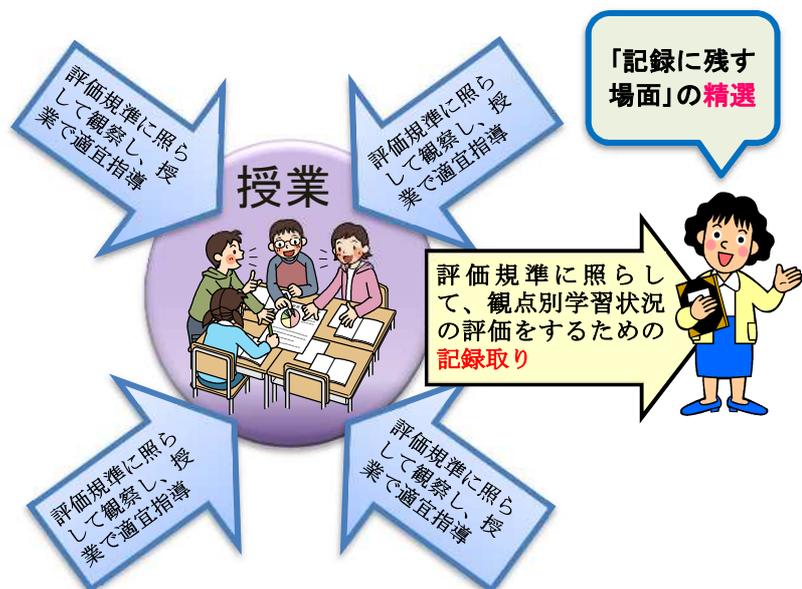
○ 目標 (ねらい)・学習活動

各時間の目標・学習活動は、その時間で児童生徒がどのような資質・能力を身に付けるのか、そのためにどのような学習活動を行うのかが明確になっていることが大切です。

○ 学習評価 (評価規準と評価方法)

これまでの学習評価については、次のような問題が指摘されました。

- ・学期末や学年末の事後的な評価に終始してしまうことが多く、学習評価の結果が児童生徒の学習改善につながっていない。
- ・「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない。
- ・教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい。



そこで、このような課題や働き方改革を踏まえ、学習評価についての検討がなされ、改善されています。

例えば、毎時間、三つの観点全てについて評価したり、児童生徒全員について記録をとり総括の資料とするために蓄積したりすることは現実的ではありません。単元(題材)の目標を分析し、各時間の目標(ねらい)にふさわしい1~2観点到評価項目を精選するとともに、記録に残す場面も精選することが大切です。そこで、児童生徒全員の学習状況を記録に残す場面や適切に評価するための評価方法等を単元(題材)構想時に計画します。詳しくは、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)をご覧ください。

学習指導案

学習指導案の形式は決まっています。以前は、島根県教育センターから例を示していました。しかし、学習指導案の形を示すことで、以下のような課題も生じていました。

- ・どれも同じ画一的な学習指導案になっている。
- ・研究授業の1時間を中心に授業を構想している。
- ・学習指導案の作成が目的になり、教科書や指導書からのコピー&ペーストが増えた。
- ・研究授業には力を入れるが、ふだんの授業改善への関心は大きいとは言えない。など

これらの問題への対応や、学習指導要領の趣旨に沿った新しい学習指導案が学校で開発されつつあることを鑑み、学習指導案の形式を提示することをやめました。その代わりに、学習指導案を作成する前(ふだんの授業をする前)に、必ず考えてほしい「授業づくりのプロセス《単元(題材)づくり》」を示すことにしました。まずは、この単元(題材)づくりを参考に、単元(題材)で育成する資質・能力を常に意識した授業を構想してください。そして、その構想に基づいて、学校(自分)独自の学習指導案を作成しましょう。

なお、さまざまな学習指導案が、書籍、研究会等でも紹介されています。そちらも参考にしてください。

参考文献

- ・学習指導要領(文部科学省)
- ・「新教育課程を生かす能力ベースの授業づくり」齊藤一弥・高知県教育委員会
(ぎょうせい)
- ・国立教育政策研究所プロジェクト研究「学校における教育課程編成の実証的研究」(平成29年度~令和3年度)「学習指導要領を理解するためのヒント」(国立教育政策研究所)
- ・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)

授業づくりのプロセス構想シート（記入例）

教科等	算 数	学年	5 年	指導者	〇〇 〇〇
-----	-----	----	-----	-----	-------

学校教育目標、めざす子ども児童生徒像、研究主題
 心豊かでたくましく 仲間とともに進んで学ぶ子の育成
 進んで学び 考える子
 思いやりがあり 助け合う子
 生き生きと活動し がんばりぬく子

単元(題材)名 (単元を貫く問い、育成する資質・能力などにつながる名称)
比べ方を考えよう

単元(題材)で育成する資質・能力	または	単元(題材)の評価規準
【知識及び技能】 (職業に関する教科は 【知識及び技術】) ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方について理解している。 ・単位量当たりの大きさについて理解している。 ・異種の二つの量の割合で捉えられる速さや人口密度などを比べたり表したりすることができる。		【知識・技能】 (職業に関する教科は 【知識・技術】)
【思考力、判断力、表現力等】 ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じた、大きさの比べ方や表し方を考えている。 ・日常生活の問題(活用問題)を、単位量当たりの大きさを活用して解決している。		【思考・判断・表現】
【学びに向かう力、人間性等】 ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさをを用いて比べることのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。 ・単位量当たりの大きさを活用できる場面を身の回りから見付けようとしている。		【主体的に学習に取り組む態度】

単元(題材)で育成する資質・能力のつながり(小学校 → 中学校 → 高等学校) [..]は紙面上省略していることを表している

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	中学校
【身のまわりのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだしたり、量の大きさを表現したりすること。】 ◆身のまわりのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだしたり、量の大きさを表現したりすること。	【数の構成と表し方】 ◆簡単な分数に.. ◆一つの数を.. 【乗法】 ◆乗法の意味に.. 【長さやかさの単位と測定】 ◆長さの単位及び..	【除法】 ◆除法の意味に.. ◆除法と乗法や.. 【長さ、重さの測定と単位】 ◆身の回りの..	【簡単な場合についての割合】 ◆ある二つの数量..	【割合】 ◆ある二つの数量.. ◆日常の事象に..	【比例】 ◆伴って変わる.. 【比】 ◆比の意味や..	【関数】 ◆表、式、グラフを.. ◆関数として.. ◆関数を用いて..

児童生徒の実態 (単元(題材)にかかわる興味・関心、問題意識、単元学習前の資質・能力の差(違い)、重点指導内容など)
 ・長さや重さなど、その大きさを一つの量(mやg等)で表し、比較をしてきている。
 ・「このバスは混んでいる」「〇〇さんは走るのが速い」など、子どもたちは会話の中で、混み具合や速さについて異種の二つの量の割合としてその量の大きさを捉えたり、比較したりして話をするのではない。
 ・時速 60kmと時速 50kmの速さを比べるときも、60と50を比較しているだけで、異種の二つの量の割合としてその量の大きさを捉えたり比較したりしているとは限らない。

指導と評価の計画

児童生徒の実態… 前時までに身に付けた資質・能力、問題意識、困り感など

見方・考え方…………… 見方・考え方を働かせている児童生徒の姿(児童生徒が、その時間の課題を解決するために、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方を働かせているのか、既習の学びをどのように活用しているのか)

手立てや支援 …… 児童生徒自ら問いを見だし、主体的・対話的で深い学びを通して解決していくための教師の手立てや支援

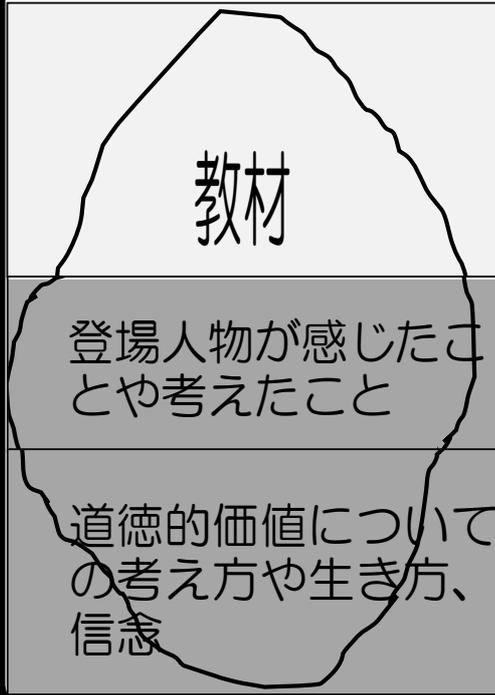
時間	ねらい・学習活動と評価規準(評価方法)	各時間の構想	
1 2	<p>面積も匹数も異なる場合の混み具合の比べ方を理解し、比べることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単位量当たりの大きさを用いて比べることの意味を理解し、混み具合を比べることができる。 <p>知①(行動観察・ノート分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 混み具合の比べ方を、面積と匹数の関係に着目して図や式を用いて考え、説明している。 <p>思①(行動観察・ノート分析)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>著作 国立教育政策研究所 「指導と評価の一体化」のための 学習評価に関する参考資料 (東洋館出版社発行) 事例を参照</p> </div>	児童生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> 長さや重さなど、その大きさを一つの量(mやg等)で表し、比較をしてきている。 会話の中で、混み具合について異種の二つの量の割合としてその量の大きさを捉えたり、比較したりして話をするのではない。
		見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> 「部屋の中にいる人数が多ければ、混んでいる」とは言えない。部屋が広ければ混んでいないかもしれない。 「部屋の広さが狭ければ、混んでいる」とは言えない。そこにいる人数が1人だったら、混んでいない。
		手立てや支援	<ul style="list-style-type: none"> 混み具合は、「異種の二つの量が必要であること」「どちらか一方の数量をそろえれば比べられること」「目的に応じた処理の仕方を工夫すること」について、子ども自身が気づくことができるようにする。(場面の工夫) 混み具合を比較するためには、どんな量が必要なのかを見つけられるようにする。(発問の工夫)
3	<p>「人口密度」の意味とその求め方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口密度の意味を理解し、人口密度を求めることができる。 <p>知②(行動観察・ノート分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人の混み具合の比べ方を、面積と人数の関係に着目して考え、説明している。 <p>思①(行動観察・ノート分析)</p>	児童生徒の実態	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>その都度、前時までの学習を踏まえ、記入していく。</p> <p>自分にわかるメモ程度で記入する。</p> <p>※この例は、説明のために詳しく記入している。</p> </div>
		見方・考え方	
		手立てや支援	
4	<p>単位量当たりの大きさを用いて、問題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単位量当たりの大きさを用いて、2つの資料を比べることができる。 <p>知③(行動観察・ノート分析) ※記録に残す</p>	児童生徒の実態	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>その都度、前時までの学習を踏まえ、記入していく。</p> <p>自分にわかるメモ程度で記入する。</p> <p>※この例は、説明のために詳しく記入している。</p> </div>
		見方・考え方	
		手立てや支援	

授業づくりのプロセス構想シート【道徳】（記入例）

教材名（出典） 雨のバス停留所で（わたしたちの道徳）	主題名 社会のきまりを守る
-------------------------------	------------------

本時の内容項目の見出し	C 規則の尊重
内容項目の分析・理解 （一緒に考えたいポイント）	<ul style="list-style-type: none"> ○約束や法、きまりを進んで守る ○法やきまり…個人や集団が安全にかつ安心して生活できる ○進んで守り、自他の権利を尊重するとともに義務を果たす
内容項目に係る児童生徒の実態	期待する児童生徒の考え
<ul style="list-style-type: none"> ○気の合う仲間や集団の中にきまりをつくる。 ○自分たちで決めたことを大切にしようとする。 ●身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共物や公共の場所との関わりについて考えることは少ない。 	 <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人が相手や周りの人の立場に立ってよりよい人間関係を築くことが大切。 ○社会集団を維持発展する上で守らなければならない約束やきまりがある。



<p>★氷山の三層モデル （畿央大学 島恒生教授考案）</p> 	<p>①道徳的に変容した登場人物は、誰か。</p> <p>(A) よし子</p>	<p>② (A) が変容するきっかけになった出来事は、何か。</p> <p>(B) いつもとは全然ちがうお母さんのようす</p>
	<p>③ (A) が、変容を遂げて、どうなったか。（教材に書いてある様子）</p> <p>(C) 自分がしたことを考え始めた</p>	
	<p>読解レベル（教材から読み取れること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな早く乗りたい、早く座りたいと思っている。 ・母が強い力で肩を引っ張ったのは、一列に並ばなかったから。 	
	<p>道徳的価値レベル</p> <p>みんな同じように願いや思いがある。 それらをきちんとかなえていくためにルールやきまりがある。</p>	

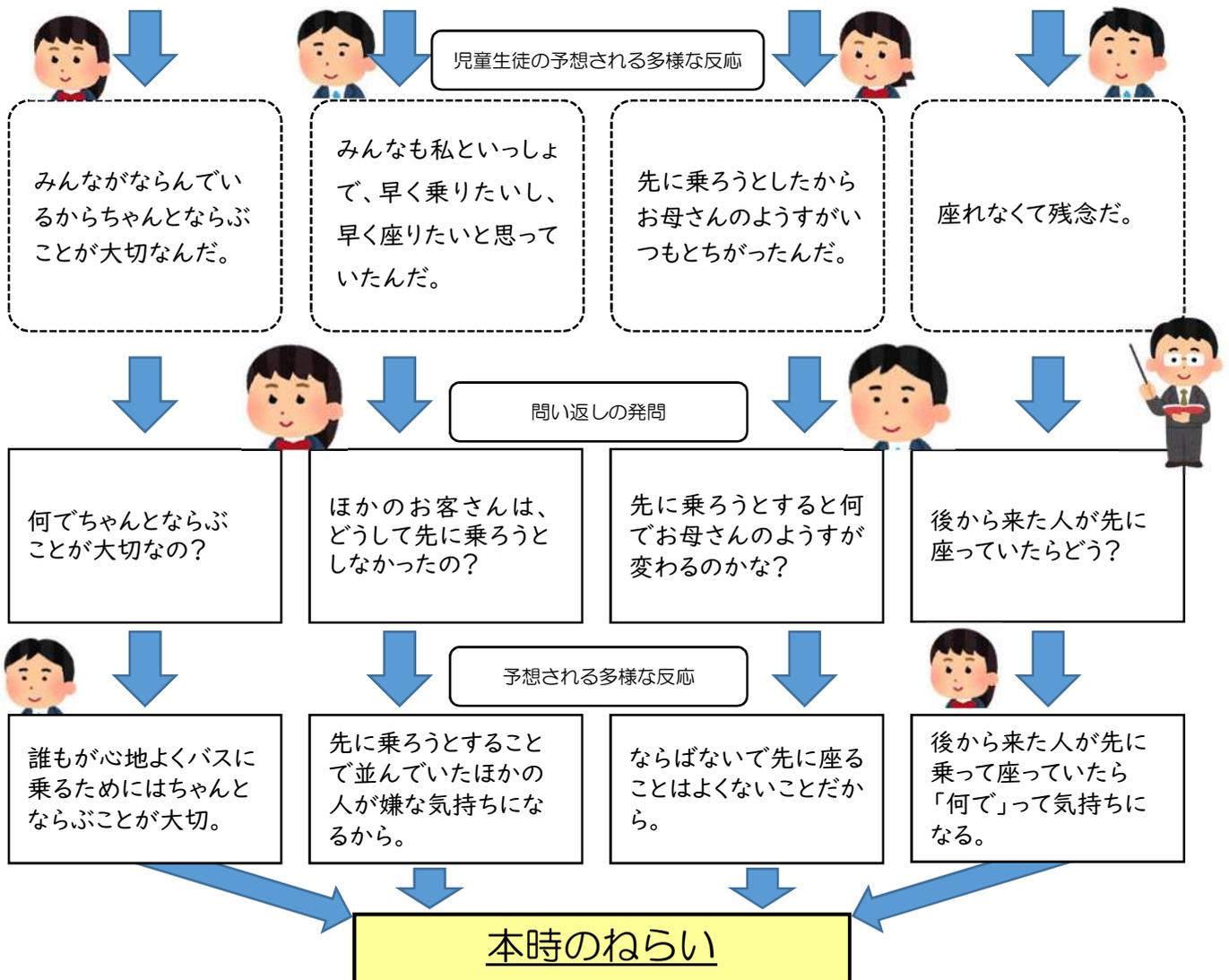
本時のねらいを明確にしましょう。

きまりを守ることは誰もが生活を送る上で大切なことに気づき、
社会のきまりを進んで守ろうとする態度を育てる。

○授業構想

ねらいにせまるための中心発問：教材分析④

雨がふきつける窓を見ながら、よし子はどんなことを考えたのでしょうか？



※本時における一面的な見方から多面的・多角的な見方へとつながる問い返しの発問例

- ①解決策の理由（動機）を問う発問 「どうしてそう思いましたか。」
- ②将来の結果（因果関係）を問う発問 「そうしたら、どうなると思いますか。」
- ③過去の経験を振り返り、将来の見通しを立てる発問 「自分も同じような経験はありませんか。」
- ④可逆性の原理を用いた発問 「自分がそうされてもよいですか。」
- ⑤普遍性の原理を用いた発問 「いつ、どこで、誰にでもそうしますか。」
- ⑥互恵性の原理を用いた発問 「それで皆が幸せになりますか。」
- ⑦その他 「～は、どんな気持ちでしょうか。」
「～のしたことをどう思いますか。」

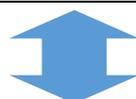
※道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（第2回）における岐阜大学大学院 柳沼良太准教授の配付資料より

（広島県立教育センター作成 「道徳リードシート」を改編）

授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】（記入例）

指導の形態	生活単元学習	学部 学年	小学部5年	指導者	○○ ○○
-------	--------	----------	-------	-----	-------

①学校教育目標、目指す児童生徒像、研究主題	
②児童・生徒の実態 5年生5名。小学部各教科1段階～3段階の内容を学習。それぞれが自分なりの手段で経験したことや思ったことを伝えようとするが、相手の思いを聞くこと、相手に伝わるように分かりやすく話したり伝えたりすること等にはまだ意識が十分でない。創作活動では、それぞれに好きな素材や色があり、経験したことを絵などで表すことが好きな児童が多い。様々な道具を扱う経験もある。1学期のお楽しみ会の活動では、遊びコーナーを自分たちで担当しているいろいろな人に喜んでもらえたことが、達成感につながった。教師の支援を受けながら、繰り返しの活動の中で見通しをもち、友達や教師とかかわりながら、自分の役割を意識して、目的のために必要なことを考えたり、準備したりすることが少しずつできつつある。	
③単元で身に付けたい力＜自立と社会参加の視点から＞ ・お楽しみ会などの経験を活かし、見通しをもちながら活動する。 ・みんながおまつりを楽しめるようにお店について考えたり工夫したりする。 ・いろいろな友達や教師とかかわり思いや考えを伝えあいながら活動する。	単元名 くみわくわくまつりをしよう



④目標として取り扱う教科で育成したい資質・能力（指導要領から抜粋）

教科名	資質・能力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生活		カ役割 (イ) 集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること	カ役割 (ア) 様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとすること	自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。
国語		ア(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと	A 聞くこと話すことウエオ ウ 見聞きしたことなどのあらまじや、自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。 オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気をつけること。 B 書くこと ウ 見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと	言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。
図画工作		A 表現(イ) 様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品を作ったりすること [共通事項ア(ア)] 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと	A 表現(ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから表したいことを思い付くこと [共通事項ア(イ)] 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと	進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

⑤主体的・対話的で深い学びのための手立て

<ul style="list-style-type: none"> ・公民館まつりに参加することで、お客さんを招くおまつりへの具体的なイメージをもてるようにしたり、お客さんが楽しむためのお店の工夫に気づくことができるようにしたりする。 ・毎時間動画による振り返りを行うことで、友達や自分のよい点や改善点への気づきにつなぐことができるようにする。 ・新たな気づきにつながらることができるよう、おまつりに招く校内の教職員には、事前に児童の実態やねらいを情報共有しておく。 ・教員は各グループにつくが、児童主体で活動を進めることができるよう、基本的には見守り必要に応じて実態に添った支援を行う。



⑥児童生徒の姿で考えると？

観点 教科名	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活	お店担当での自分の役割が分かって、活動している。	みんなが楽しめるおまつりになるように考えたり工夫したりしながら活動している。	周りの人に自分から関わりながら進んで取り組んでいる。
国語	お店担当で必要な言葉ややりとりに気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんに楽しんでもらえるような言葉がけややりとりを考えている。 ・「いらっしやいませ」「ありがとうございました」などの挨拶をしている。 ・相手に伝わるような声の大きさを話している。 ・おまつりに必要なことをチラシや店の表示に簡単な文で表している。 	積極的に友達や教師に言葉で伝え合おうとしている。
図画工作	いろいろな材料や用具を使って、工夫しながらお店の表示や看板などを作っている。	おまつりをイメージしながら、作りたいお店の表示を思い付いたり、思いに合った材料や色を選んだりしている。	つくる楽しさを感じながら、進んでおまつりに必要な物づくりに取り組んでいる。

⑦単元計画

時間	学習活動	ねらいにせまる(又は各教科等の見方・考え方を働かせる)児童生徒の姿	評価の計画		
			知	思	主
1次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○わくわくまつりの計画を立てる ・内容や招待する人、役割を決める。 	<p>1学期にしたことを思いだして考える</p> <p>「みんなが一番楽しそうだったのは〇〇のお店だったな。ルールを工夫したらもっと楽しめるかもしれない」</p> <p>「今度は、〇年生の友達をよんだら、もっと楽しんでもくれるかも」</p>		生活	
2次 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○お店の準備をする ・それぞれのお店で必要ものを考える ・お店担当としての言葉や台詞を教師と一緒にまとめる ○公民館まつりに行って、お客さんが楽しめる工夫を探す 	<p>児童同士で相談しながら考える教師とやりとりをしながら、一緒に準備をする</p> <p>↓</p> <p>公民館まつりでの気づき</p> <p>「大きな声で「いらっしやい!」と言ってる」</p> <p>「このお店は呼び込みの人と、ゲーム担当の人がいるんだな」</p>	生活 国語		
3次 (4時間)					
4次 (3時間)					
5次 (2時間)					

授業づくりのプロセス構想シート①【自立活動】(記入例)

学部・学年		指導者	
-------	--	-----	--

★学校教育目標、目指す幼児児童生徒像、研究主題

--

1 実態把握

(1) 子どもの生活や学習において、本人の得意なこと・頑張っていること・好きなこと、苦手なこと・困っていること、本人と保護者の願い、数年後(約3年)や卒業後の姿を想像する。

子どもの姿			
学年	1年	障がい	知的障がい・構音障がい
本人の得意なこと、頑張っていること、好きなこと ・好きな大人や友達があり、その相手に自分から笑顔でかかわろうとする。相手のすることを真似するなどして合わせようとするので、友達からも好かれている。 ・アニメが好きで、その話を自分から慣れた大人に話そうとしたり、絵を描いたりしようとする。 ・学習にはまじめに取り組み、言われたことはきちんとしようとする。 ・体を動かす遊びが好きで、慣れた相手と鬼ごっこなどを楽しんでいる。	本人の苦手なこと、困っていること ・発音が不明瞭で、順序だてて話すことが難しいため、話していることが相手に伝わりにくいことがある。 ・自分の気持ちをうまく表せず、涙が出ることもある。 ・慣れないことや初めてすることには不安感があり、担任の後ろに隠れるようにしていることがよくある。 ・大きな声で話す活動的な友達との集団の場では、自分の思っていることをあまり出そうとせず、周りに合わせていることが多い。 ・体の動きにぎこちなさがある。 ・給食を食べるのに時間がかかる。		
本人の願い	・〇〇(アニメのキャラクター)になりたい。 ・みんなと一緒に勉強したい。		
保護者の願い	・できるだけ、友達と一緒に勉強できる機会を多くつくってほしい。同学年の友達と仲良く過ごしてほしい。		
数年後の卒業後の姿	・自分の思いや考えを自分なりの表現で友達に伝えながら、様々な活動に取り組んでほしい。		

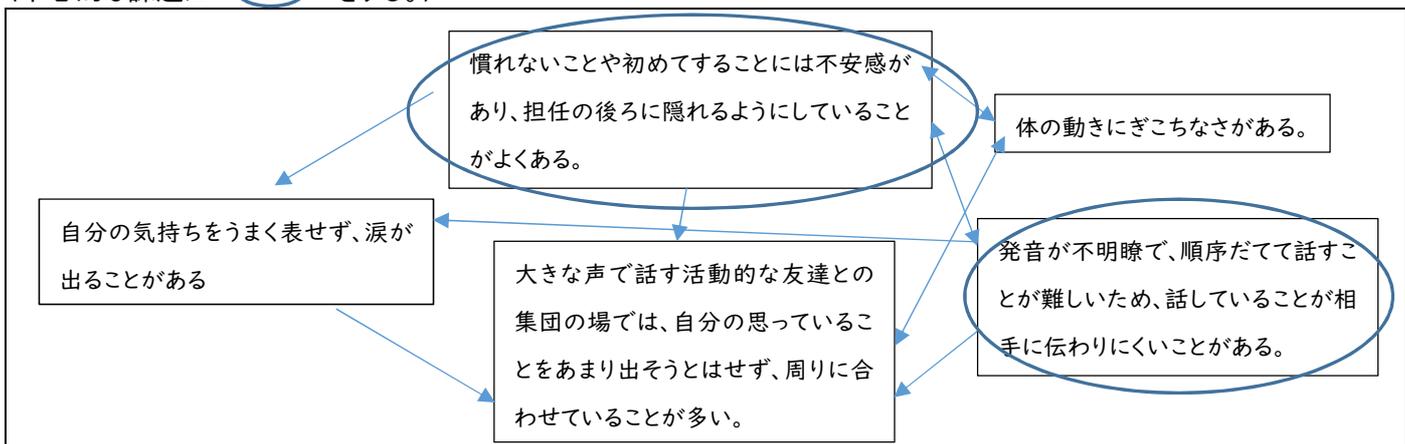


(2) 「自立活動の6区分27項目」に即して情報を整理し、子どもの全体像をとらえる。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・自分の気持ちをうまく表せず、涙が出ることもある。 ・慣れないことや初めてすることには不安感があり、担任の後ろに隠れるようにしていることがよくある。 ・学習にはまじめに取り組み、言われたことはきちんとしようとする。	・自分の気持ちをうまく表せず、涙が出ることもある。 ・大きな声で話す活動的な友達との集団の場では、自分の思っていることをあまり出そうとせず、周りに合わせていることが多い。 ・好きな大人や友達があり、その相手に自分から笑顔でかかわろうとする。相手のすることを真似するなどして合わせようとするので、友達からも好かれている。	・アニメが好きで、その話を自分から慣れた大人に話そうとしたり、絵を描いたりしようとする。	・体の動きにぎこちなさがある。 ・体を動かす遊びが好きで、慣れた相手と鬼ごっこなどを楽しんでいる。 ・給食を食べるのに時間がかかる。	・自分の気持ちをうまく表せず、涙が出ることもある。 ・発音が不明瞭で、順序だてて話すことが難しいため、話していることが相手に伝わりにくいことがある。

2 中心的な課題(この課題が解決できたら、現在の学習や生活が円滑になるもの)を考える。

(中心的な課題に ○ をする。)



3 指導目標(ねらい)の設定

指導目標	選定された項目
・担任とともに、学級の友達や校内の教師とかかわろうとする姿を増やす。	心理的な安定(1) 人間関係の形成(1)(4)
・両唇をすぼめたり閉じたりする動きに慣れる。	コミュニケーション(1)(2) 心理的な安定(3)



4 指導目標(ねらい)がどの項目と関連をしているか選定する。

選定された項目	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
	<input type="checkbox"/>	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (1)情緒の安定に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (1)他者とかかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (1)保有する感覚の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事
<input type="checkbox"/>	(2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	<input type="checkbox"/> (2)状況の理解と変化への対応に関する事	<input type="checkbox"/> (2)他者の意図や感情の理解に関する事	<input type="checkbox"/> (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (2)言語の受容と表出に関する事
<input type="checkbox"/>	(3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (3)障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	<input type="checkbox"/> (3)自己の理解と行動の調整に関する事	<input type="checkbox"/> (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (3)日常生活に必要な基本動作に関する事	<input type="checkbox"/> (3)言語の形成と活用に関する事
<input type="checkbox"/>	(4)障がいの特性の理解と生活環境の調整に関する事	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> (4)集団への参加の基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	<input type="checkbox"/> (4)身体の移動能力に関する事	<input type="checkbox"/> (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
<input type="checkbox"/>	(5)健康状態の維持・改善に関する事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> (5)認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関する事	<input type="checkbox"/> (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	<input type="checkbox"/> (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

5 具体的な指導内容の設定

指導目標(ねらい)を達成するために、「選定された項目」を関連づけて、具体的な指導内容を1~3つにまとめる。

具体的な指導内容	○遊びの中で、両唇をすぼめたり閉じたりする動きを経験する。 ・ピンポン玉転がしゲーム ・シャボン玉 ・ブクブク競争 ・口をしっかりと動かしてみよう 等	○担任と好きなことを通してたくさんやりとりをする。 ・○○(アニメのキャラクター)グッズや新聞づくり	○担任と一緒に、友達や校内の教師とかかわる経験をする。 ・一緒に遊ぼう ・おかしやさんをひらこう
指導場面	・自立活動の時間	・自立活動の時間 ・各教科等 ・昼休み等	・自立活動の時間 ・各教科等 ・昼休み等
本人の得意なこと・頑張っていること 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな大人や友達があり、その相手に自分から笑顔でかかわろうとする。相手のすることを真似するなどして合わせようとするので、友達からも好かれている。 ・アニメが好きで、その話を自分から慣れた大人に話そうとしたり、絵を描いたりしようとする。 ・学習にはまじめに取り組み、言われたことはきちんとしようとする。 ・体を動かす遊びが好きで、慣れた相手と鬼ごっこなどを楽しんでいる。 		

6 指導目標の評価

担任とかかわりの中で、自学級でも交流学級でも、やりたいことを表したり、興味のあることを中心に意欲的に取り組む姿がとも増えた。そして、その姿を目にした友達が「Aちゃんってこんなこと好きなんだ」と声をかけてきたり、一緒に活動を楽しんだりすることが増え、その中で担任を介さなくても友達や同じ学年部のS先生、教頭先生に向かって大きな声で話す姿も見られるようになってきた。特に、「おかしやさんをひらこう」では熱心に取り組み、今まであまりかかわろうとしなかった友達にも「次は○○つくるよ」と自分から積極的に声をかける姿があった。自立活動の時間における指導の中では、自分で両唇の動きを意識しながらストローやピンポン玉などを扱おうとしたり、両唇音の発声をしようとしたりするようになった。まだ確実ではないが、「こうしたほうがうまくいく」という感覚はつかんでいるようである。普段の会話の中では、特に両唇の動きを意識している様子はうかがえない。ただ、いろいろな活動を思い切り楽しみ自分の思いを表すことができるようになったことが、声の大きさや表情や動きの豊かさにつながり、以前よりやり取りはスムーズになった。それでも伝わりにくいこともあるが、その際は本人が「だーかーら〜〇、〇、だよ!」とゆっくり言い直すようになり、その際は、両唇音やウ段の音で唇の動きを意識して話そうとするようになってきた。

授業づくりのプロセス構想シート②【自立活動】（記入例）

学校教育目標 目指す児童生徒像 研究主題				
児童生徒名	A	B	C	D
指導目標 （長期目標）	○自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受けとめたりしながら活動に取り組む。 ○衣服の前後を意識して、着替えをする。	○自分の思ったことや考えたこと、気持ちを自分から友達に伝えることができる。 ○衣服の前後を意識して、着替えをする。	○相手のペースに合わせて活動を行ったり、気持ちを考えようとして、相手に意識をむけることができる。 ○身体のかを入れる部位を意識して、正しい姿勢で座ることができる。	○友達とやりとりをしながら、自分の気持ちをコントロールして活動に取り組む。
指導内容	○関心のある事柄について、楽しみながら取り組むことを通して、安定した情緒で活動する経験を積む。 ○関心のある事柄について、友達や教師とやりとりしながら、話し合い決めていく経験を積む。	○安心のできる身近な人との間で、関心のある出来事等について話し合ったり、力を合わせたりして、人と関わる楽しさを感じ自信が高まるようにする。 ○衣服の背面を示すマークを意識して、着用する衣服をマークが見えるようにひらける。	○友達を意識して協調的な動作ができるようにする。 ○日常の出来事や友達との会話をイラストを使って振り返り、相手の話を聞きながら話ができるように意識する。 ○姿勢が整いやさしいように椅子を調整したり、姿勢保持のチェックポイントを確認できるようにする。	○関心のある事柄について、意欲的に取り組むことを通して、安定した情緒で活動する経験を積む。 ○自分を落ち着かせる方法について考え試して、自分にあった方法を見つける。
育成すべき 資質・能力との関連	○遊び、人との関わり、役割（生活：知識及び技能、思考力・判断力・表現力等） ○簡単な指示や説明を聞いてそれに応じた行動をする、体験したことなどについて伝えたいことを考える（国語：聞くこと・話すこと 思考力・判断力・表現力等）	○基本的生活習慣、人とのかかわり、役割（生活：知識及び技能、思考力・判断力・表現力等） ○体験したことなどについて伝えたいことを考える、挨拶や簡単な台詞を表現する（国語：聞くこと話すこと 思考力・判断力・表現力等）	○登場人物の行動や場面の様子を想像する、登場人物になったつもりで音読したり演じたりする（国語：読むこと 思考力・判断力・表現力等） ○各教科等における 学びに向かう力・人間性等	○相手に伝わるような話し方（国語：聞くこと・話すこと 思考力・判断力・表現力等） ○人との関わり、役割、きまり（生活 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等）
学習や生活の中で見られる 長所やよさ興味・関心	○様々な活動に自分なりのイメージや思いをもち意欲的に取り組んでいる。	○テレビのバラエティ番組に興味をもっている。 ○決められた役割に自分からコツコツと取り組む姿がある。	○図鑑を読むことやアニメのキャラクターに興味がある。 ○自分の好きなことや知っていること、考えたことについて周りの教師や友達に話したいという気持ちがある。	○ゲームなどの勝敗のある活動のある活動に活動することが多い。 ○発想も豊かで、学習活動の中でも自分のアイデアを活発に発言し友達を引っ張っていく姿がよくみられる。



児童生徒名	A	B	C	D
単元の指導目標	○自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受けとめたりしながらにこにこゲーム大会の活動に取り組む。 「にこにこゲーム大会を開こう」	○自分の思ったことや考えたこと、気持ちを友達や教師に伝える。	○相手の思いや考えに意識をむけながら、にこにこゲーム大会の活動に取り組む。	○自分の気持ちをコントロールしながら、友達との活動に取り組む。
単元名	「にこにこゲーム大会を開こう」			
主な活動内容	・交流学級または校長先生、教頭先生を招待してゲーム大会をする。 ・輪投げ			



★自立活動の具体的な指導内容を考える際の配慮事項です。指導内容を考える際に次の6点（幼稚部は7点）を意識しましょう。

- ア 主体的に取り組む
オ 自ら環境を整える
- イ 改善・克服の意欲を喚起
カ 自己選択・自己決定を促す
- ウ 発達を進んでいる側面を更に伸ばす
キ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせる
- エ 自ら環境を整える
ク 自ら環境と関わり合う（幼稚部のみ）

自立活動の配慮事項についての詳しい説明は、『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』の111～118ページに掲載されています。詳しくはそちらをご覧ください。

児童生徒名	A	B	C	D
単元の指導目標	○自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受けとめたりしながらにこのゲーム大会の活動に取り組む。	○自分の思ったことや考えたこと、気持ちを友達や教師に伝える。 ・話し合いの内容に応じて、思いや考えを表しやすいうように、選択肢を入れた質問をしたり、仲の良いAとペアアでの活動を設定したりする。 ・友達と話し合う中で、友達への考えが友達と異なっており、解決策を見つけたしにくい時には、児童の気持ちを受けとめつつ、自分や友達の考えに基づく活動を体験して考えることができるようにする。 ・友達と話し合う中で、友達への考えに意識を向ける様子や自分の考えを振り返る様子があることをとらえ、伝えることで自分の変化が意識できるようにする。	○相手の思いや考えに意識をむけながら、にこのゲーム大会の活動に取り組む。 ・友達への意識が高まるように、話し合いの時は、友達の様子に意識を向けるような問いかけ（「Cの考えをどう思ったか。」など）をする。 ・振り返りの時は、友達の様子を思い出しながら自分自身の振り返りができるように、ワークシートの設問を工夫する。	○自分の気持ちをコントロールしながら、友達との活動に取り組む。 ・にこのゲーム大会への期待感がある中で、気持ちをコントロールしてできる経験を積めるようにする。児童が「ゲーム大会まであと何日？」というように日程表を確認したり、招待状を渡す活動を設定して、招待をする教職員がゲーム大会を楽しみにしている様子を見たりする。 ・活動中に気持ちが不安定になった時には、教師がその気持ちを認め見守りつつ、活動にもとるきつかけとなる言葉がけをしていく。
手立て(単元を通して)	準備や話し合いの中で自分の考えが友達と異なっており、解決策を見つけたしにくい時には、児童の気持ちを受けとめつつ、自分や友達の考えに基づく活動を体験して考えることができるようにする。 ・友達と話し合う中で、友達への考えに意識を向ける様子や自分の考えを振り返る様子があることをとらえ、伝えることで自分の変化が意識できるようにする。	話し合いの内容に応じて、思いや考えを表しやすいうように、選択肢を入れた質問をしたり、仲の良いAとペアアでの活動を設定したりする。 ・友達と話し合う中で、友達への考えが友達と異なっており、解決策を見つけたしにくい時には、児童の気持ちを受けとめつつ、自分や友達の考えに基づく活動を体験して考えることができるようにする。 ・友達と話し合う中で、友達への考えに意識を向ける様子や自分の考えを振り返る様子があることをとらえ、伝えることで自分の変化が意識できるようにする。	相手の思いや考えに意識をむけながら、にこのゲーム大会の活動に取り組む。 ・友達への意識が高まるように、話し合いの時は、友達の様子に意識を向けるような問いかけ（「Cの考えをどう思ったか。」など）をする。 ・振り返りの時は、友達の様子を思い出しながら自分自身の振り返りができるように、ワークシートの設問を工夫する。	自分の気持ちをコントロールしながら、友達との活動に取り組む。 ・にこのゲーム大会への期待感がある中で、気持ちをコントロールしてできる経験を積めるようにする。児童が「ゲーム大会まであと何日？」というように日程表を確認したり、招待状を渡す活動を設定して、招待をする教職員がゲーム大会を楽しみにしている様子を見たりする。 ・活動中に気持ちが不安定になった時には、教師がその気持ちを認め見守りつつ、活動にもとるきつかけとなる言葉がけをしていく。
日時	活動内容	準備物		
6/5 (月)	○1組ゲーム大会の計画をたてる ・どんなゲーム大会にしたいか考える ・招待する教職員を決める	手立て 記録		
6/12 (月)	○みんなが楽しめる輪投げゲームを考える ・全体でみんなが楽しめる方法を考える ・ペア(AとB)(CとD)	手立て ・相手の考えを受けとめて、自分の考えを言う様子を認め、その姿を伝えることで、自分の姿に気づけるようにする。 記録 ・Bの考えと異なることがあり、納得がでず活動が止まることがあったが、教師とのやりとりをすることでBの考えを受け入れる様子が見られた。	意見が相反した時には、Dに「どうして、そう思うか。」確認の質問をするように促し、相手の考えに気づけるようにする。 ・Dの考えと同じところがあることに気がつく様子が見られ、Dの考えに賛成していた。	楽しいゲームにしようかとがんばって考えている姿やCの考えを受けとめた様子が見られた時は称賛をして、気持ちを安定させて活動をしていることへの自信につなげる。 ・自分の考えを認めさせようと言葉が荒くなることと似ていることがあったが、自分の考えがCと似ていることをCが伝えることで、気づいて協力する様子が見られた。
:	:	手立て 記録		

児童生徒名	評価	
A		
B	・自分の考えを友達に伝えることで、好きなテレビ番組で行われているゲームの雰囲気や輪投げゲームの雰囲気を感じることができて、嬉しそうだった。招待する教職員からゲーム大会について質問を受けた時には、どのように伝えようか考える時間をとりながら、最後まで答える様子が見られた。	
C		
D	・みんなが楽しめるゲーム大会にしようと思いついたが、時々、自分の考えを友達に認めさせようと言葉が荒くなったり、考えが異なると準備が進まなかったりして気持ちが不安定になることがあった。ゲーム大会当日は、自分で気がついて招待した教職員の座を準備したり、笑顔でゲームを楽しんだりした。	
児童生徒の評価	①活動内容 ④教具	②活動量 ⑤活動の場の配置 ③活動の流れ ⑥指導目標の妥当性
指導に対する評価	①自分達が招待したい教職員を招待して、ゲーム大会を行うという活動の流れは、目的意識をもちやすくて児童が意欲的に取り組むことができた。この活動の流れは、今後も利用できるもので2学期で計画をしたい。 ③ゲーム大会の概要を決めて、招待状を作成して渡した。このことで招待状を渡した時に招待する教職員からの質問に答えることができ、コミュニケーションをとることができた。この流れは良かった。 ④輪投げゲームの道具は既製品を使用した。既製品を使うことで児童はゲームの具体的なイメージをもつことができて、児童が工夫を加えることができた。 ⑥単元の指導目標は、各児童についてほぼ良かった。Aは、自分の思いを相手に伝え、相手の思いを受けとめる経験を継続して積んでいくことが必要だと考える。	

学習評価

「学習評価」は、児童生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために、その在り方が極めて重要です。観点別学習状況の評価を行う際に必要となる評価規準等、「学習評価」を行うにあたって参考となる資料を紹介しますので、ぜひご確認ください。

「学習評価の在り方ハンドブック」は学習評価全般について示しています。「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」は教科ごとにあります。国立教育政策研究所のホームページからダウンロードができます。

「学習評価の在り方ハンドブック」

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する資料」



小・中学校編

高等学校編

小学校

中学校

高等学校

(国立教育政策研究所 HP からダウンロード可)

「特別支援学校 学習評価参考資料」

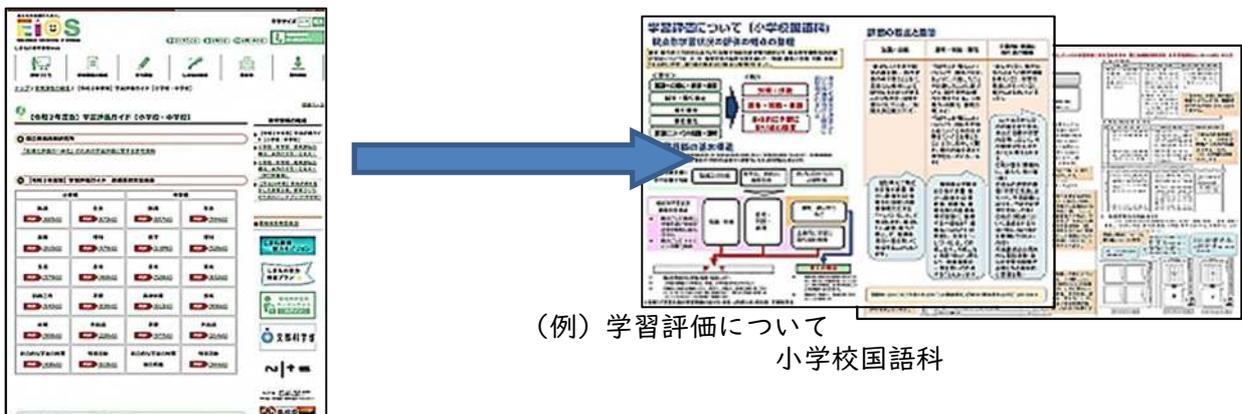


小学部・中学部

高等部

(文部科学省 HP からダウンロード可)

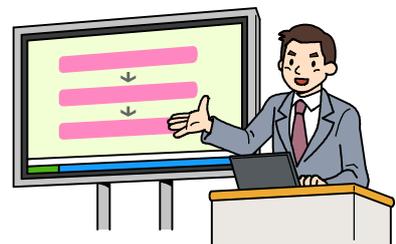
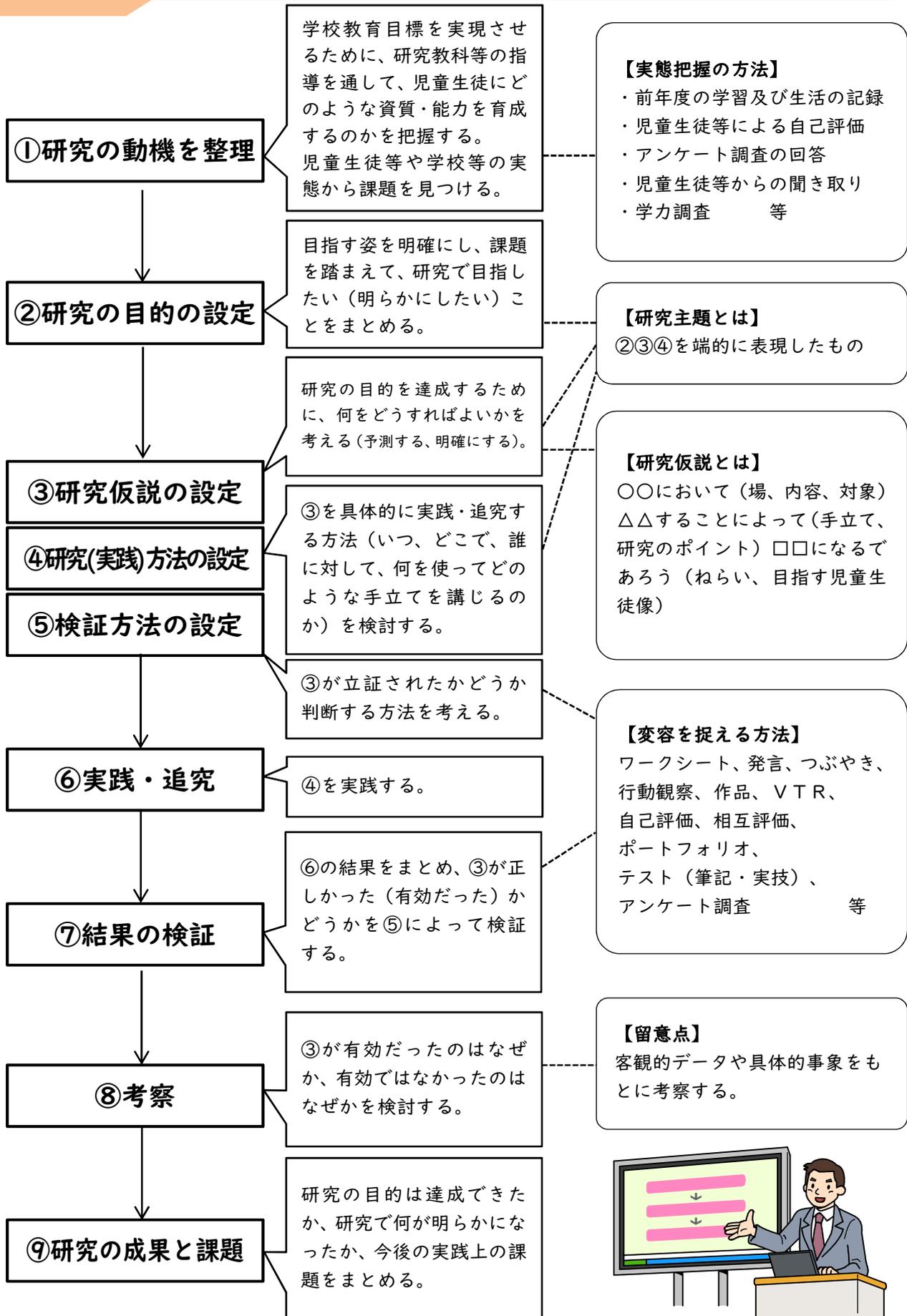
「学習評価ガイド」(県教育委員会)



(例) 学習評価について
小学校国語科

EIOS しまねの教育情報 Web > 教育課程の編成 > 学校評価ガイド

課題研究の進め方



様式2 (教諭) 課題研究構想メモ (記入例)

教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる

学校名 () 個人番号・氏名 ()

教科等の見方・考え方と育成する資質・能力

言葉による見方・考え方：児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

- (1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

教科等の「見方・考え方」「育成する資質・能力」を学習指導要領解説等から読み取り記入する。具体的な学習場面における教科等の「見方・考え方」も理解する。

研究主題

思いや考えをもってかかわり、豊かに表現する子どもの育成 ～国語科「読むこと」の授業づくりを通して～

研究の動機

- ・学校教育目標 「夢や目標をもち、かかわり合いながら、たくましく生きる子どもの育成」
- ・めざす子ども像 「よく考え表現できる子、お互いを大切にできる子、やり抜く子、すこやかな子」
特に国語科では、よく文章を読み取り、自分の考えをもったり、自分の思いや考えを進んで伝え合ったり、言葉を大切にしたりする子を目指している。

学校教育目標や学校で目指す子ども像を記載する。(学校全体で取り組もうとしていることでもよい)

【学校や児童生徒等の実態(強み、弱み)】

- 友達と話し合う活動ができる。
- 読書や音読を進んで行う児童が多い。
- 学力調査では、国語科において、全国・市平均を上回った。
- △言語による表現活動を苦手とする児童が多い。
- △文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることに苦手意識をもつ児童が多い。
- △複数の資料から読み取った情報を相互に関係付けたりしながら必要な情報を読み取る力が十分身に付いていない。

児童生徒等や学校の実態(強みや弱み)を記載する。
○：強み △：弱み

研究の目的

「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」ができる。[思考力・判断力・表現力等C読むこと](学習指導要領解説より)

- ・チームや研究主任と話し合い、目指す児童像や共通してねらいにせまる手立てや取組を共通理解し、学校教育目標の実現を目指す。
- ・「構成」に関する言語活動を行うときに共通する有効な手立てやワークシートを生み出したい。
- ・年間指導計画を工夫することで、「読むこと」を主軸にした思考・表現活動を他教科の授業でも展開し、学習の基盤となる資質・能力である言語能力として育成していく。

学習指導要領から目指す姿を明確にする。研究で明らかにしたいこと(目指したいこと、生み出したいこと)を記入する。教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえた手立てを記入する。

研究仮説

- ・興味・関心・意欲を高めるような単元構想や学習形態を工夫すれば、文章を正確に読み取り、自分の思いや考えをもって教材文にかかわる子どもが育つであろう。
- ・「読むこと」を主軸に、思考・表現活動を充実させる授業づくりを工夫していけば、豊かに表現する子どもが育つであろう

○○において(場、内容、対象) △△することによって(手立て、研究のポイント) □□になるであろう(ねらい、目指す児童生徒像)

研究(実践)方法

- 1 事前アンケート調査(国語科について)
- 2 先行研究調査(ワークシートや学習形態)
- 3 年間指導計画の見直し
- 4 教材研究
- 5 先行研究を参考に作成したワークシートを利用し、「構成」に関する言語活動を取り入れた授業実践(1学期)
- 6 改善したワークシートと「読むこと」を主軸にした思考・表現活動を取り入れた授業実施(2学期)
- 7 事後アンケート調査(ワークシートや「読むこと」を主軸にした思考・表現活動に対する意識等)
- 8 考察
- 9 成果と課題

検証方法

- ・ワークシートの記述により、思考の深まりを見取る。
- ・学習形態と子どもの教材文へのかかわり方への態度の関係を分析する。
- ・グループで対話した後の工夫の変化を、ワークシート、ノート、発表等から捉える。
- ・事前アンケートと事後アンケートを比較し、思考の深まりの自覚や思考・表現活動の変容を読み取る。

様式2 (教諭) 課題研究構想メモ (チェック表)

教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる

学校名 () 個人番号・氏名 ()

教科等の見方・考え方と育成する資質・能力

- 教科等の見方・考え方が書いている。
- 教科等で目指す資質・能力が書いている。

研究主題

- 研究内容が分かる具体的なものになっている。

研究の動機

- 学校教育目標と教科等で目指す姿とのつながりを書いている。
- 上記の目指す姿に関する児童生徒等の実態を具体的、客観的に書いている。

【例】

- | | |
|-------------------|--------------|
| ・ノート、ワークシート等の記述内容 | ・発言や活動の様子 |
| ・全国学力・学習状況調査 | ・学びの基盤に関する調査 |
| ・模試等の記述内容や結果 | ・これまでの授業の評価 |

- 児童生徒のよさ(強み)も書いている。

研究の目的

- 目指す姿を学習指導要領(解説)の目標や内容等を参考にしている。
- 求められている教育課題や学校教育目標、児童生徒等の課題にあっている。

研究仮説

- 実践する内容を明確にしている。
- 取り組むことを数点(1、2)に絞り込んでいる。
※焦点化した方が取り組みやすい
- 具体的に検証できるものを書いている。

研究(実践)方法

- 調査や実践、考察等の計画を具体的に書いている。
- 年間を通して計画的に取り組むことができるものである。

検証方法

- 検証するための具体的な基準がある。
 - 客観的に検証するための具体的な方法がある。
- 【例】授業中のワークシートやノート、発言、授業評価、振り返り、自己評価、相互評価、プレテストとポストテスト、パフォーマンステストなど

課題研究 構想発表（校内発表）の進め方の例

チームメンバー、管理職等を含む複数の教員又は全教職員の前で課題研究の課題研究構想発表を行います。発表と協議を通して、教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業について理解を深めていきます。

○進め方

- ・司会はチームメンバーが行う
- ・流れ

① 発表

- ・構想メモをもとに、1年間取り組む課題研究について説明する。
- ・その他必要な資料を用いたり、プレゼンテーションソフトを活用したりして、参加者の理解と協力を得る。

② 質疑応答、参加者からのアドバイス

- ・よい点や改善の余地があると感じた点などについて

③ まとめ

- ・発表者が、今後の研究の取組についての展望(願い)を発表する

メモ

授業づくり② (第Ⅱ回教育センター研修)

授業動画の視聴、協議を通して、これまでの授業づくり・課題研究を振り返ることで、成果や課題を見いだします。

9月以降の授業や研究授業の構想を立て、それについての仲間からのアドバイスをすることで、授業づくりに役立てます。

【教科等別】

- (1) 教科代表の授業動画を視聴する。
- (2) 「教科等の見方・考え方を働かせ、資質・能力を伸ばす～主体的・対話的で深い学びを通して～」をテーマに、研究協議を行う。
- (3) 授業づくりグループに分かれ、課題研究及び2回目研究授業の構想を推敲する(授業づくりのプロセス構想シートの修正)。
- (4) 課題研究・研究授業について発表、協議をする。
- (5) 指導主事からの指導・助言を聞く。

今後の予定

- ・ オンデマンド研修動画視聴後、校内研修発表を行う。
- ・ 校内発表終了後、一週間以内にオンデマンド研修・校内発表の振り返りを研修情報システム MyPage [アンケート] から回答する。
(最終メ切 2月5日(木))
- ・ 第Ⅱ回教育センター研修の成果を9月以降の授業、2回目研究授業、課題研究等に生かす。
- ・ 課題研究レポート(中間発表用)を教育センターに提出する。
(メ切 10月9日(木))
- ・ レポートの記載内容については、著作権、個人情報や肖像権等に十分配慮する。

課題研究 校内中間発表の進め方の例

チームメンバー、管理職等を含む複数の教員又は全教職員の前で課題研究の課題研究中間発表を行います。発表と協議を通して、教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業について理解を深めていきます。

○進め方

- ・司会はチームメンバーが行う
- ・流れ

① 発表

- ・これまでの実践を踏まえ、課題研究の実践・検証方法について振り返る。
- ・教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業の取組を発表する。

※資料を用いたり、プレゼンテーションソフトを活用したりして、取組について参加者にわかりやすく説明する。

② 協議・質疑応答

- ・よい点や改善の余地があると感じた点などについて

③ まとめ

- ・発表者が、今後の研究の取組についての展望(願い)を発表する。

メモ

授業づくり③ 課題研究 中間発表（第Ⅲ回教育センター研修）

各教科等のグループで、課題研究の中間発表を行います。発表と協議を通して、教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業について理解を深めていきます。

○進め方

- ・司会進行は受講者が行います。
- ・流れ（グループの人数によって時間は変わります。詳しくは担当指導主事が伝えます。）

- (1) 準備、全体説明
- (2) 一人ずつ①～②を行う（グループの人数と全体の時間から一人あたりの時間を調整する）。
 - ① 発表
 - ・これまでの実践の成果・課題・展望
 - ・教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業の取組
 - ・児童生徒が働かせていた教科等の見方・考え方
 - ② 協議、質疑応答
 - ・参考になる点や改善点などについての協議
 - ・必要に応じて担当指導主事のコメントやアドバイス
- (3) 指導主事より全体のまとめ、諸連絡等

授業研究と提出物に関するお知らせ

- ・第Ⅲ回教育センター研修以降、協議でのアドバイスや日頃の取組、授業研究等を今後の課題研究に反映させる。
(中間発表までに2回目研究授業が終わっている場合も、協議でのアドバイスを日頃の取組等に取り入れ、その成果や課題を反映させる)
- ・課題研究レポートの記載内容については、著作権、個人情報や肖像権等に気を付ける。
- ・次回の提出物：課題研究レポート（成果発表用）[様式5]（メ切2月5日(木)）

課題研究 校内成果発表の進め方の例

チームメンバー、管理職等を含む複数の教員又は全教職員の前で課題研究の課題研究
成果発表を行います。発表と協議を通して、教科等横断的な視点に立った資質・能力を
踏まえ、教科等の目標に迫る授業について理解を深めていきます。

○進め方

- ・ 司会はチームメンバーが行う
- ・ 流れ

① 発表

- ・ 課題研究の成果・課題・今後への展望を発表する。
- ・ 教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業の取組を発表する。

※資料を用いたり、プレゼンテーションソフトを活用したりして、取組について参加者にわかりやすく説明する。

② 協議・質疑応答

- ・ 成果の共有、来年度以降継続・発展させたいことなどについて

③ まとめ

- ・ 発表者が、自らの資質能力の向上に向けて取り組みたいことを発表する。

メモ

授業づくり④ 課題研究 成果発表（第Ⅳ回教育センター研修）

各教科等のグループで、課題研究の成果発表を行います。1年間の研究を振り返り、成果と課題を明らかにして、次年度以降に生かしていきます。

○進め方

- ・司会進行は受講者が行います。
- ・流れ（グループの人数によって時間は変わります。詳しくは担当指導主事が伝えます。）

(1) 準備、全体説明

(2) 一人ずつ①～②を行う（グループの人数と全体の時間から一人あたりの時間を調整する）。

① 発表

- ・課題研究の成果・課題・今後への展望
- ・教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業の取組

② 協議、質疑応答

- ・参考になる点や改善点などについての協議
- ・必要に応じて担当指導主事のコメントやアドバイス

(3) 指導主事より全体のまとめ

(4) 課題研究振り返りシートを加筆、修正

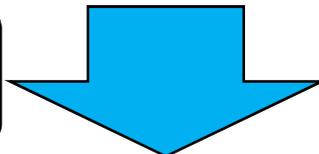
- ・今年度の授業づくりについて
- ・次年度以降に向け、継続したい取組や追究したい取組、新たにめざしたい取組（事前に記入した「課題研究振り返りシート」(P92)を準備する)

課題研究 振り返りシート (第IV回教育センター研修)

学校名 () 個人番号・氏名 (.)

研究の成果	成果につながった背景・要因
研究の課題	課題となった背景・要因

研究を振り返って、継続したい取組や、より追究したい取組を記載する。



1年間の研究を受け、新たに目指したい取組を記載する。

継続・追究する取組

新たな取組

教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業へ向けての今後の取組

おわりに

1年間の中堅教諭等資質向上研修はどうでしたか。

「授業づくり」においては、「教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業」について、授業づくりの視点や大切なことへの新たな発見があったり、実践していることへの難しさを感じたりしたのではないのでしょうか。子どもたちがたくましく、豊かに歩んでくれることを願って、これからも授業改善を目指し、学び続けていきましょう。

また、「学校を支えるOJT」においては、日々の業務の中で学校全体の実態や課題に向けて、先生方それぞれの意識や工夫のもと様々な実践に取り組みましたと思います。学校を支えるとともに、先生方自身の成長や自信につながったのではないのでしょうか。今後も学校を支える立場として、また、後輩へのよき指導者として、よき相談相手として、ご活躍されることを期待しています。



「教員の各ライフステージに応じて求められる資質能力（文部科学省）」より

中堅教員の段階

学級担任、教科担任として相当の経験を積んだ時期であるが、特に、学級・学年運営、教科指導、生徒指導等の在り方に関して広い視野に立った力量の向上が必要である。また、学校において、主任等学校運営上重要な役割を担ったり、若手教員への助言・援助など指導的役割が期待されることから、より一層職務に関する専門知識や幅広い教養を身に付けるとともに、学校運営に積極的に参加していくことができるよう企画立案、事務処理等の資質能力が必要である。